

1. 相馬市の被害状況

平成23年（2011年）3月11日（金）

14時46分 震度6弱の地震を観測

15時50分頃 津波到達
(高さ9.3m以上：気象庁発表)

市民の死者	458人
市内収容	419人
市外収容	19人
宣 告	20人
市民の行方不明者	0人
住宅被害	5,848棟
全 壊	1,097棟
大規模半壊	269棟
半 壊	785棟
一部損壊	3,697棟
被災水田面積	1,102ha

※震災当時の全水田面積2,700ha



津波は堤防を乗り越え、大洲海岸から約3.7kmの距離にある国道6号バイパスまで到達しました。原釜・尾浜地区、磯部地区などの集落が津波の被害にあいました。

その他の主な被害状況



◆市内の被災者

避難者
最大4,545名
 (平成23年3月14日)

【主な課題】

- ・被災者の健康管理
- ・避難所（23カ所）から仮設住宅、恒久住宅等への移行
- ・失われたコミュニティの再生
- ・心のケア
- ・孤独死対策 等

◆福島第一原子力発電所事故の影響

放射線による
健康への影響に
対する不安

風評被害

有害鳥獣
の増加
(イノシシ等)



等



◆地震・津波の影響

地震による倒壊
や津波による
災害ガレキ
(509,849 t)

道路、
上下水道等の
生活基盤への
被害

農地浸水
(ガレキ・塩害)
・
漁業施設の
流出

※地盤沈下が広範囲で発生

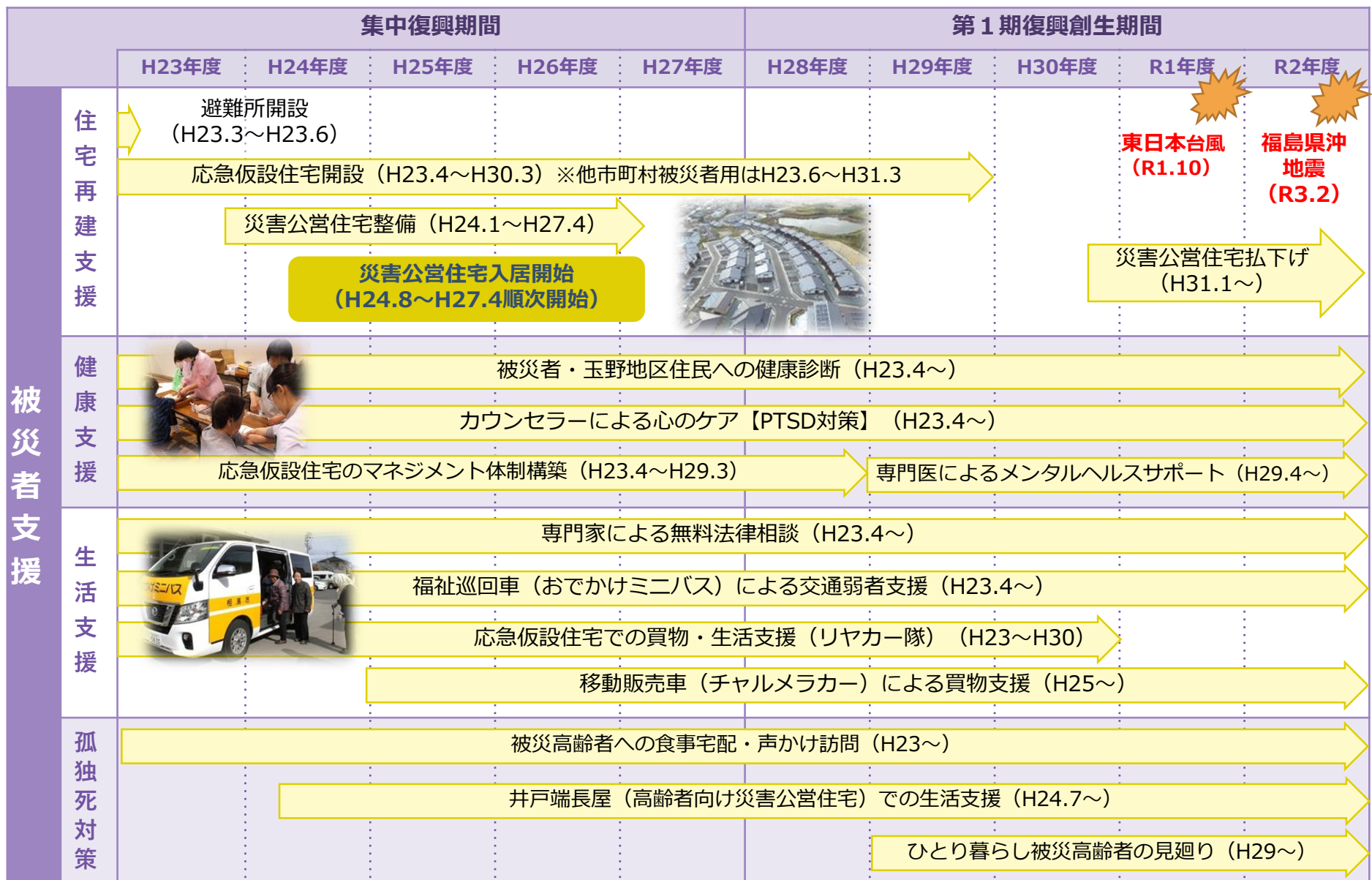
等

2. 相馬市の復興へのあゆみ

相馬市では、平成23年8月29日に策定した「相馬市復興計画」に沿って、復旧・復興事業を行ってきました。

復興の段階が進むごとに変化する状況や新たな課題に対応するため、定期的に計画を見直しなが、復興を果たした新しい相馬の創造を目指していきます。

▼復興への取組の一部



集中復興期間

第1期復興創生期間

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度

H27年度

H28年度

H29年度

H30年度

R1年度

R2年度



空間線量測定 (H23~)

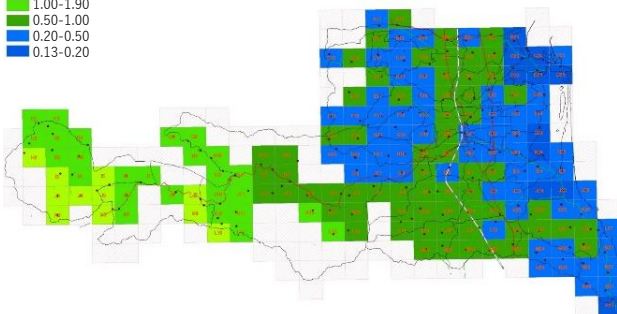
除染作業 (H23~H29)

中間貯蔵施設へ除去土壌搬出 (H27~R2)

環境整備

単位: $\mu\text{Sv/h}$
 1.90-2.50
 1.00-1.90
 0.50-1.00
 0.20-0.50
 0.13-0.20

平成23年 1kmメッシュ

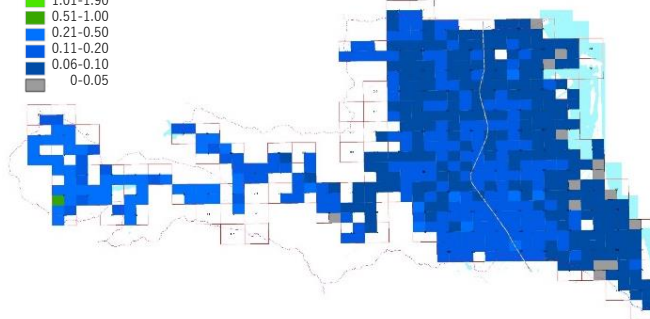


空間線量測定
調査結果の推移

青色が増え、
放射能汚染からの
環境回復が進んで
いることがわかり
ます

単位: $\mu\text{Sv/h}$
 1.9
 1.01-1.90
 0.51-1.00
 0.21-0.50
 0.11-0.20
 0.06-0.10
 0-0.05

令和2年 500mメッシュ



外部被ばく検査 (ガラスバッジ・Dシャトル) (H23~)

内部被ばく検査 (ホールボディカウンター) (H24~)

放射線教育 (H23~)

自家消費野菜等放射性物質測定 (H23~)

学校給食放射性物質測定 (H24~)



健康対策

地産地消推進・学校給食での相馬産農水産物積極的活用 (H24~)

首都圏等での相馬産農水産物PR (H25~)

復興市民市場
「浜の駅松川浦」
オープン (R2.10)

復興市民市場「浜の駅松川浦」
整備検討 (H27~H31)

整備
(H31~R2)

風評払拭

放射線対策

集中復興期間

第1期復興創生期間

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度

H27年度

H28年度

H29年度

H30年度

R1年度

R2年度

インフラの復旧・再整備

がれき処理

災害がれき等の処理 (H23~H28)

民家・公共建物解体撤去 (H23~H25)



交通網整備



市道復旧・避難道路整備 (H23~R3)

常磐道全線開通 (H27.3)

JR常磐線全線復旧 (R2.3)

相馬福島道路全線開通 (R3.4)

雨水排水対策

雨水排水計画策定 (H24~H25)

雨水幹線・ポンプ場整備 (H25~H28)



漁業基盤整備

試験操業実施 (H24.6~R3.3)

水産共同利用施設整備 (H25~H29)
※原釜・磯部漁具倉庫、原釜共同集配施設・荷捌き施設、磯部水産加工施設 等



産業の再生

農業基盤整備

農地災害復旧 (H24~H28)

農業法人設立推進 (H24~)

森林再生事業 (間伐等の森林整備・路網整備) (H26~)



有害鳥獣対策

有害鳥獣焼却施設整備 (H27)

射撃場整備 (H28~H29)

猟銃等取得助成 (H29~)

集中復興期間

第1期復興創生期間

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度

H27年度

H28年度

H29年度

H30年度

R1年度

R2年度

健やかな成長



音楽による生きる力をはぐくむ事業（エル・システム子ども音楽祭等）（H24～）

屋内遊び場オープン
こどもドーム（H26.12）
こどものみんなの家（H27.3）

尾浜こども公園オープン
（R2.10）

小中学校給食費無料化（H30～）

学習支援

相馬寺子屋事業（現役東大生ボランティアによる学習支援）（H23～）

被災中学校ICT機器導入（H23～H28）

市内各小中学校ICT機器導入（H29～）

学力向上推進員配置（H24～H27）

リーディングスキルテスト事業
（R2～）

災害への備え

防災備蓄倉庫整備
（H24～H25）

防災無線等整備（H24～H26）

風化防止 慰霊碑・伝承鎮魂祈念館
整備（H25～H26）

震災以降、新たに11自治体と
災害時相互応援協定を締結

震災教育、復興ツアー等での活用（H27～）

交流人口の拡大

復興視察ガイド、観光ガイド、イベント企画等の実施（H23～）

スポーツツーリズム推進（H25～）



アリーナそうま
第2体育館
オープン

尾浜ビーチ
バレーボール場
オープン

相馬ブランド化推進（H30～）

災害跡地の活用

災害危険区域買取り（H23～R2）

住民代表による利活用検討
（H27.8～）

尾浜こども公園整備
（H29～R2.10）

3. 復興への課題

相馬市では、震災から10年が経過した令和2年度までに、ハード面の整備はほぼ完了しました。令和3年度以降は、心身のケアや風評払拭といったソフト事業を中心に復興を進めていきます。

▼主な課題（一部）

被災者の心身のケア・生活支援

生活環境の変化による体調不良やストレスを抱える被災者の方々が安心して生活していけるよう、健康管理や精神的なケア、生活支援を継続して実施していきます。

【主な取り組み】

- ・被災者の健康診断
- ・カウンセラーによる心のケア
- ・声掛け訪問等の孤独死対策
- ・移動販売車による買い物支援 等



放射線対策と風評払拭

原発事故発生から10年が経過してもなお、風評による影響は続いています。また、これまでの検査等により相馬市民への放射線による直接的な健康への影響は無いことが分かっていますが、相馬市の子どもたちが将来に不安を感じたり、根拠のない偏見をうけることが無いよう、放射線検査や正しい知識を身に着けるための放射線教育を継続していく必要があります。

【主な取り組み】

- ・食の安全性についての情報発信
- ・浜の駅 松川浦（復興市民市場）の活用
- ・小中学校での放射線教育 等

交流人口の拡大

産業を盛り上げ、風評を払拭していくためにも、相馬市の魅力を発信し、多くの方に相馬市を訪れていただけるよう努めていきます。

【主な取り組み】

- ・スポーツツーリズムの推進
- ・復興視察ガイド
- ・相馬ブランド化の推進
- ・友好都市等との交流 等



災害危険区域の活用

今後、同様の災害が起きたときに人命を守るため、津波により被害を受けた区域は「災害危険区域」に指定し、居住を制限しています。沿岸部に震災前のような賑わいを取り戻すため、災害危険区域の有効活用を図ります。

【主な取り組み】

- ・磯部地区慰霊碑公園（仮称）の整備
- ・災害危険区域の有効活用に向けた検討 等

